

地域部会 協議内容について(第1回目)

総合型地域スポーツクラブの基盤づくり

①文科省推奨：総合型地域スポーツクラブについて

- ・補助金が終了するとクラブがぐらつき、地域の元気がなくなる
- ・人も要る、補助金使途にしぼりが多い
- ・モデルとしたヨーロッパスポーツ文化と日本スポーツや制度の違い

②市民スポーツ意識について

- ・スポーツはタダに根付きがある
- ・ボランティアによる無形サービスで成り立っている
- ・イベントやスポット開催は校区で可能

③成功例

- ・施設管理の指定管理費（行政委託）で専従者を雇う（ボランティアでは家族を養うことはできない）
- ・ビジネス運営感覚がクラブの基盤にある
- ・自治体財源が苦しく地域がやらざるを得ない状況下にある場合は市民力で運営できる

④クラブが市として必要なのか？どんなクラブならできるかについて

- ・無理のない持続可能なクラブ（念頭から補助金がなくなることを想定しておく）
- ・独自性を目指す
- ・年代、スポーツ人口を踏まえターゲットを明確にする
- ・技術向上クラブならばお金を払う
- ・小さなコミュニティはたくさん存在するが、まとめるのは難しい

理念

- ・スポーツの力は信じるべきで、地域づくりの原点とも考えるべき

方向性

- ・無理のない古賀クラブを見つける
- ・クラブのターゲット年齢層
- ・だれでも（年齢を気にせず）参加でき、安価なクラブづくり

運営内容・組織

- ・古賀市の自然を生かすスポーツ（海辺や西山活用）
- ・人を見つける
- ・生涯スポーツの推進組織

支える人材育成・活用

①中学部活と社会体育の連携

- ・市として指導者の意識を押さえる
スポーツ障害
セクハラ
パワハラ
- ・人ありきが見えづらい関係の解消
登録者の人が見えない状況下
校区単位登録だと顔が見える

②他部局との連携 健康づくり

- ・福祉部局との連携

地域スポーツ活動の充実

スポーツを通じた地域活性化

第一回目部会協議なし